

# 平成27年度埼玉県学力・学習状況調査に係る分析報告書 まとめ

## 国語編 視点1「従来から取り組んできて、効果を出している取組」

	1 戸田第一小学校	2 戸田第二小学校	3 新曽小学校	4 美谷本小学校	5 笹目小学校	6 戸田東小学校	7 戸田南小学校	8 喜沢小学校	9 笹目東小学校	10 新曽北小学校	11 美女木小学校	12 芦原小学校
小4 県62.0	<p>全学年を通して「単元を貫く言語活動」の設定(目的意識・相手意識を明確にする学習課題の設定)が効果を上げている。</p> <p>構成や記述の段階において、自己評価として推敲を、相互評価として交流を取り入れ、よりよい文章を書き表すための手立てとしてきたことが、児童の「書くこと」の力を高めている。</p>	<p>◎本校は多くの領域・観点で県・市の平均を上回っている。そこでこれまでに取り組んできた以下の取組を維持・継続していく。(全校共通の指導(授業)体制の確立)</p> <p>①学び合いの手法を取り入れた授業づくり</p>	<p>1年前から取り組んでいる、国語の校内研修の取組や漢字検定の校内実施の取組が「読む能力」や「言語についての知識・理解・技能」を高めたと考えられる。</p>	<p>朝読書(ポラントシアの読み聞かせ含む)の推進</p> <p>学校独自の検定(従来の3学期各学期末に行う、基礎基本の確認検定テスト)を行った。</p>	<p>本校では授業のユニバーサルデザイン化を研修で進めてきた。特に国語の「書く」領域に特化して取り組んできたので、文章の構造や書き方等を学び、書くことに抵抗がなくなってきたことが成果として現れていると考える。</p>	<p>「読むこと」については県・市の正答率より上回っている。毎週取り組んでいる「読書タイム」や読書マラソン「目指せ10000ページ」など、読む時間の充実を図っている効果だと考える。</p>	<p>漢字指導に関する反復学習を実施した。</p> <p>漢字辞典を積極的に活用した授業を展開した。</p> <p>音読学習に継続的に取り組んだ。</p>	<p>国語タイム(朝自習)での視写や短作文づくりによって、「書くこと」は少し身に付いてきていると思われる。また、朝読書の取組によって、物語を「読むこと」はできている。</p>	<p>漢字学習は、新出漢字の繰り返し練習、漢字小テストや50問テストの徹底した取り組みにより、県平均に大きな差が見られない。</p> <p>音読は毎日の宿題として定着しているため効果を出している。</p>	<p>毎日家庭学習で音読に取り組んでいる。</p>	<p>週に一度行われている国語のパワーアップタイムで、特に漢字の学習に力を入れてきた結果、県正答率を上回ることができた。</p>	<p>「読む能力」については全校で水曜日に行っている読書タイムや音読の宿題の取組の効果だと考える。</p>
小5 県72.8	<p>全学年を通して「単元を貫く言語活動」の設定(目的意識・相手意識を明確にする学習課題の設定)が効果を上げている。</p> <p>構成や記述の段階において、自己評価として推敲を、相互評価として交流を取り入れ、よりよい文章を書き表すための手立てとしてきたことが、児童の「書くこと」の力を高めている。</p>	<p>・授業及び授業規律の共通理解・共通指導</p> <p>・思考を共有する</p> <p>・コーディネーター発問例の活用</p> <p>・ノート指導の共通理解</p> <p>②朝学習の活用</p> <p>・曜日毎の国語・算数・話し合い</p> <p>・少人数指導教諭の活用</p> <p>③学習環境の整備</p> <p>・家庭学習の取り組み方の提示(自主学習・漢字学習等)</p>	<p>1年前から取り組んでいる、国語の校内研修の取組や漢字検定の校内実施の取組が「読む能力」や「言語についての知識・理解・技能」を高めたと考えられる。</p>	<p>言語を文脈の中で適切に使うという問題において高い正答率が出ている。</p> <p>これは、朝読書や空いた時間に読書をするなど、読書の推進を図ってきた効果だと考える。</p>	<p>校内研修で「書く」領域に特化し、文章校正を色分けしたり、順序立てて文章を組み立てたりする学習を積んできたことで、文章を書くことに抵抗なく取り組めるようになった。</p> <p>また、基礎的な内容の充実を目的として行ってきた授業で、定着が図れているといえる。</p>	<p>本校は「漢字の読み取り、書き取り、部首、ことわざ」については県・市正答率を上回っている。定期的に漢字小テストを行ったことにより、全体的に漢字の取組みに意欲の高まりがみられた。</p>	<p>各クラスで取り組んでいる音読やスピーチが「話す、聞く」の正答率に結びついていると思う。</p>	<p>国語タイム(朝自習)での視写や短作文づくりによって、「書くこと」は少し身に付いてきていると思われる。また、朝読書の取組によって、物語を「読むこと」はできている。</p>	<p>漢字の読みについては大きな開きが見られなかった。これは、毎日の家庭学習で行っている音読や読書による効果の現れであると考えられる。</p>	<p>書きのタネ用紙を活用した。</p> <p>学校独自で開発した少人数での話し合いを展開した。</p>	<p>算数の「文殊の知恵タイム」など、発表する機会を多く設け、児童の表現力を高めてきた。</p>	<p>「読む能力」については、全校で行っている水曜日の読書タイムや音読の宿題の取組の効果だと考える。</p> <p>話型を利用した1分間スピーチを継続的に実施する。</p> <p>「今月の詩」を利用し、日常的に音読の学習活動を充実させる。</p>
小6 県69.0	<p>全学年を通して「単元を貫く言語活動」の設定(目的意識・相手意識を明確にする学習課題の設定)が効果を上げている。</p> <p>構成や記述の段階において、自己評価として推敲を、相互評価として交流を取り入れ、よりよい文章を書き表すための手立てとしてきたことが、児童の「書くこと」の力を高めている。</p>	<p>・読書マラソン活動の推奨</p> <p>・ユニバーサルデザインに基づく学級経営(授業・教室環境)</p>	<p>1年前から取り組んでいる、国語の校内研修の取組や漢字検定の校内実施の取組が「読む能力」や「言語についての知識・理解・技能」を高めたと考えられる。</p>	<p>本校は「話すこと聞くこと書くこと」については県・市正答率とほぼ同値である。これは、学活等で事実と意見を区別して発表させたり、意見を書かせたりしている効果だと考える。また、朝自習で取り組んでいる短作文で書き方に慣れ親しんでいた結果だと考える。</p>	<p>繰り返し、漢字の読み書きをしたり、言葉に関するドリルを使ったスキル学習を継続的に行ってきたことで、ある程度の基礎的な知識・理解は習得できた。</p>	<p>本校は「言語についての知識・理解・技能」については県・市正答率を上回っている。これは、ドリルだけでなく、自主学習ノートも用いて漢字の学習を行っている効果だと考える。また、その成果を確かめるために、定期的に漢字の小テストを行っていることも要因の一つと思われる。</p>	<p>スピーチ原稿作成や川柳作成を定期的に取り入れることにより、周囲の状況や様子、自分の感情などを書き表す力を養っている。</p> <p>書く活動を各単元に取り入れている。</p>	<p>国語タイム(朝自習)での視写や短作文づくりによって、「書くこと」は少し身に付いてきていると思われる。また、朝読書の取組によって、物語を「読むこと」はできている。</p>	<p>漢字の読み・書き問題においては、県、市の正答率に大きな開きが見られない。(一部では上回っている項目もある)これは、朝自習「漢字計算タイム」の効果であると考えられる。</p>	<p>学校独自で開発した少人数での話し合い活動を積極的に取り入れ、コミュニケーション力の育成を図っている。</p>	<p>毎週月・木曜のパワーアップタイム、朝の会や帰りの会のスピーチなどに取り組むことで「話すこと・聞くこと・書くこと」の領域や「話す・聞く能力」及び「書く能力」の観点において県正答率を上回った。</p>	<p>「読むこと」については、6年間取り組んできた水曜日の読書タイムや宿題の音読の取組の効果だと考えるので引き続き行っていく。</p>

# 平成27年度埼玉県学力・学習状況調査に係る分析報告書 まとめ

## 国語編 視点1 「従来から取り組んできて、効果を出している取組」

	1 3 戸田中学校	1 4 戸田東中学校	1 5 美笹中学校	1 6 喜沢中学校	1 7 新曽中学校	1 8 笹目中学校
中1 県70.6	本校は「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について、3年間継続して「漢字コンテスト」に取り組んでいる。今年度の入学生にも同様に取組ませ効果を上げていきたい。	「言語についての知識・理解・技能」の項目においては県・市の正答率に大差ないといえる。毎時間の漢字の書き取りや意味調べの実施など、言語に関わる取組が効果を発揮してきたのだと思う。	朝読書や、素読の指導に取り組んでいるために「読むこと」の成果が出ている。	本校は「書く能力」について、県・市の正答率を大きく上回っている。これは、小学校において、書くことを重ねて取り組んできた結果と考えている。	特になし。	話す活動（スピーチ）を充実させた。聞く活動（リスニング）を充実させた。漢字の練習に取り組んだ。
中2 県66.5	本校は「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については県・市正答率を大きく上回っている。これは1年前から取り組んでいる「漢字コンテスト」の効果だと考える。	「言語についての知識・理解・技能」の項目において、本校は県の正答率を上回っている。これは、授業内で定期的に行っている漢字の書き取りや漢字テストなど、日々の取組が効果を発揮していると考えられる。	朝読書や、素読の指導に取り組んでいるために「読むこと」の成果が出ている。	本校は「言語についての知識・理解・技能」について県・市の正答率を上回っている。これは、毎時間取り組んでいる漢字学習と辞書引き学習の効果と考える。また「話す・聞く能力」についても県・市正答率を上回っている。これは、継続的に行っている意見交流や討論の学習の効果と考える。	1年時より行っている独自に作成した漢字練習帳の成果が今回の「言語についての知識・理解・技能」の結果につながったと思う。	書く活動を中心とした授業を展開した。協調学習を用いた話し合い活動を実施した。毎週の漢字テストを実施した。
中3 県63.9	本校は「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については県・市正答率を大きく上回っている。これは1年前から取り組んでいる「漢字コンテスト」の効果だと考える。	作文指導を推進した。授業における書く活動を多く取り入れた。	朝読書や、素読の指導に取り組んでいるために「読むこと」の成果が出ている。 漢字小テストの実施による基本的な漢字学習に取り組む。	本校は「言語についての知識・理解・技能」については県・市の正答率を上回っている。これは3年前から取り組んでいる授業最初に行っている漢字学習の効果だと考える。また、文法を積み重ねて学習している成果であると思われる。	書く力が弱いという以前の結果を基に、自分の考えを根拠に基づいて、相手に伝えるように書くことを課題とし、プリントを用い、書く作業を多く取り入れてきた。その結果としてポイントが向上し、書くことにも慣れてきた。	作文や文章を書くことを大切にしてきたため、観点別評価の「書くこと」において市・県正答を上回っていると考えられる。

# 平成27年度埼玉県学力・学習状況調査に係る分析報告書 まとめ

## 国語編 視点2 「『新しい学び』として取り組みたい / 取り組む予定の方法」

	1 戸田第一小学校	2 戸田第二小学校	3 新曽小学校	4 美谷本小学校	5 笹目小学校	6 戸田東小学校	7 戸田南小学校	8 喜沢小学校	9 笹目東小学校	10 新曽北小学校	11 美女木小学校	12 芦原小学校
小4 県62.0	ベネッセコーポレーションとの連携を生かし、ICTを活用した授業をすすめていく。また市内教育施設を活用し、必要な単元において積極的に専門家の協力を仰いだり、資料の提供を求めたりしていく。	○アクティブ・ラーニングの理論に基づく授業づくり ・協調学習（知識構成型ジグソー法による）の手法を取り入れた授業研究 ・アクティブ・ラーニングに対する理論研究	「話す・聞く能力」を高めるためには、身に付けさせる言語能力を明確にしたうえで、適切な言語活動を設定することが大切である。そのために、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れ、子供達が主体的に伝え合ったり学び合ったりすることができるようにしていく。	書いたものを友達と読み合い、感想を伝え合ったり、自分の考えをグループやペアで話すアクティブ・ラーニングを通して、どんな児童の意見も生かされるようにする。 自主学習で取り組んでいる日記を意欲的に書いてくる児童が少ないので、書いてみたいという意欲を持たせるための、具体的なヒントプリントを作成し、書く活動につなげる。 日直によるスピーチや、係の発表などの場を日常的に設定し「話す・聞く」活動を増やしていく。	「読む」「話す・聞く」に課題が見られるため、基礎的基本的な学習内容に加えて、理解力を高めることや話すことでの言語活動の充実を図る必要がある。本校で進めている授業における「シェア」（学びの共有化）を充実させ、従前のお互いの意見を交換するだけでなく、アクティブ・ラーニングの考え方を取り入れ、グループによる問題解決型の学習や協調学習の手法なども取り入れて、自分の意見を積極的に話し、より学び合いが深まる手だてを検討する。	○「話す・聞くこと」言語活動を充実させることが重要。「すじ道を立てて話す」「質問や感想を言う」「進行にそって話し合う」「聞き取りメモの工夫」などの学習を大切に取り組み、話し合い活動を活性化させるために協調学習を各単元の中で、意図的に計画的に行っていく。 ○「書くこと」自分の考えを明確に伝えるためには、「自分の考えを伝えるのは」「新聞を作ろう」「私の研究レポート」で、筋道を立て、理由や例をあげながら、話の中心がはっきりした文章が書けるようにする。	「読むこと」、「書くこと」を通して、本校の課題は「事実」と「考え」を分けて捉え、段落相互の係り関係を考えることである。言語についての知識・理解・技能面でも課題があることから、教科書の本文から主語・述語・指示語等を丁寧に押さえるという基本的な学習活動を大切に読み取らせ、そこから書くことに関連づけて取り組んでいく必要がある。また、自分なりの考えをもつことが前提なので、日頃から友達と積極的に意見を交流して自分の考えを深めることにも重点を置き授業展開を行いたい。	「話すこと・聞くこと」については、言語活動の充実が大切であると思われるので、授業において、話し合い活動を充実させるアクティブ・ラーニングを取り入れる。また、ベネッセ「ミライシード」を取り入れた授業を実施し、必ず自分の考えをもつ、他の意見を受け入れる、さらに自分の考えを深めるという新しい学習スタイルを実施する。	「話すこと」「聞くこと」に関しては、国語の時間のみならず、教育課程全体で、話し合いを多く取り入れる。国語科においては、協調学習を中心としたアクティブ・ラーニングを取り入れ、言語活動を充実させる。	学校独自で開発した学習形態（少人数の話し合い）を活用した主体的な学習。	県と比べて正答率で1.0ポイント以上下った①文の構成を理解する（主語と述語）②ローマ字の読み③指示語の読み取り④段落相互の関係⑤話題については、協調学習を中心としたアクティブ・ラーニングを行う。説明文では協調学習を取り入れ、友達と意見を交流させ、自らの考えを深めるなどして、まとめを書くようにする。	
小5 県72.8	ベネッセコーポレーションとの連携を生かし、ICTを活用した授業をすすめていく。また市内教育施設を活用し、必要な単元において積極的に専門家の協力を仰いだり、資料の提供を求めたりしていく。	○アクティブ・ラーニングの理論に基づく授業づくり ・協調学習（知識構成型ジグソー法による）の手法を取り入れた授業研究 ・アクティブ・ラーニングに対する理論研究	「話す・聞く能力」を高めるためには、身に付けさせる言語能力を明確にしたうえで、適切な言語活動を設定することが大切である。そのために、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れ、子供達が主体的に伝え合ったり学び合ったりすることができるようにしていく。	「話すこと」に関しては、話の要点をおさえ、発言の内容を考えることが課題のため、言語活動を充実させることが重要だと考える。そのために、授業の話し合いを活性化させるために協調学習を中心としたアクティブ・ラーニングを取り入れる。	特に「読む」領域に課題が見られるため、今年度取り組んでいる「読む」単元での研究を充実させ、1授業に「しかけ」を盛り込みながら理解を深めさせる工夫をしていく予定である。また、「授業のスタンダード基本構成」の中の「シェア」の活動の充実を図り、自分の意見を発表するだけでなく、お互いに学び合えるようにグループでの問題解決学習や協調学習の手法を取り込んで、言語活動の充実及び思考力の向上を図る取組を行っていく予定である。	国語の授業においては、授業内で新たに学んだ言葉を、討論会、話し合いや発表会などの表現活動も多く取り組み、その中で普段から使えるようにする。「読解力」に関しては、主語と述語を正しく読み取らせることが重要だと捉える。そのため、「50文字要約」「改行」を意図的に取り入れ、文章の伝えたい内容を短い文でまとめる練習を繰り返し行っていく。	これまでに児童が書いた様々な作文、文章をみると、「主語がはっきりしない」「助詞が正しく使われず文意が伝わりにくい」「一文が長くとりとめのない文章になっている」「構成がはっきりしない」等の傾向が見られる。そこで、「主語・述語」、「はじめ・なか・おわり」の構成を意識して書くことを重点的に指導していきたい。推敲や互いに読み合う活動を重視した指導計画を立て自己評価・相互評価をしながら書く力の向上を図る。またグループで話し合う活動を意図的に取り入れたい。	書くことに関しては、書く活動を意図的・計画的に設定・確保すること、学年の実態に応じた課題を示すことが大切であると考え。国語タイム（朝自習）の際の試写では系統的な視写教材に取り組む。 ベネッセ「ミライシード」を取り入れた新たな話し合い活動を実施し、思考力を深める学習を進める。	ベネッセ「ミライシード」を活用した新しい話し合い活動のスタイルを取り入れ、主体的な学びを促していく。アクティブ・ラーニングを取り入れ、言語活動の充実を図る。	授業スタイルの工夫。 AB1セット方式（単元を貫く言語活動）	協調学習、ディスカッション等、アクティブラーニングを取り入れ、思考力・表現力等、総合的な国語力を養う。考える活動、自分の考えを書く活動を多く取り入れた授業を展開する。 児童のさまざまな考えを引き出したり思考を深めたりするような発問を工夫する。	教科や単元の特性に応じて、効果的な協調学習を取り入れる。 ICTを活用し、少人数における課題解決型学習を実践する。
小6 県69.0	ベネッセコーポレーションとの連携を生かし、ICTを活用した授業をすすめていく。また市内教育施設を活用し、必要な単元において積極的に専門家の協力を仰いだり、資料の提供を求めたりしていく。	○アクティブ・ラーニングの理論に基づく授業づくり ・協調学習（知識構成型ジグソー法による）の手法を取り入れた授業研究 ・アクティブ・ラーニングに対する理論研究	「話す・聞く能力」を高めるためには、身に付けさせる言語能力を明確にしたうえで、適切な言語活動を設定することが大切である。そのために、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れ、子供達が主体的に伝え合ったり学び合ったりすることができるようにしていく。	「読むこと」に関して、言語活動を充実させることが重要だと捉える。そのために国語の授業においては、深く読みとるために、グループ活動等を取り入れたアクティブ・ラーニングを取り入れる。	改めて、基礎的・基本的な内容の充実と定着を図るため、「めあての明確な提示」「視覚的なわかりやすさを示す（ビジュアル）」「授業で学ぶことを焦点化する（イージー）」の手法を徹底して行う。また、学んだ知識を発展させ、自分の考えにまとめさせたり、意見交換を行う活動（シェア）を充実させ、思考する機会を増やしていく授業改善に取り組む。	国語の授業においては、授業内で新たに学んだ言葉を、討論や話し合いや発表会などの表現活動も多く取り組み、筋道を立てて、根拠をもって話せるようにし、その中で普段から使えるようにする。「読解力」に関しては、主語と述語を正しく読み取らせることが重要だと捉える。そのために、「100文字要約」「改行」更に、「自分の考え」を意図的に取り入れ、文章の伝えたい内容と自分の意見や思いを文でまとめる練習を繰り返し行っていく。	ユニバーサルデザインの視点から、段落構成等を視覚的にわかりやすく提示し、苦手な児童も安心して取り組むことで、自分の考えを持てるようにする。読み返す時間を十分とる。推敲を含めた交流の際に、アクティブ・ラーニングの考え方を生かして活発な意見交流をさせ、文章内容の向上につなげる。また、見合う視点を明確にすることで個々の文章推敲の力もつくれる。	「話すこと」を充実させるために、ベネッセと協力して「ミライシード」を活用する。自分の意見を必ずもつこと、他の意見を受け入れ、さらに自分の考えを深めるという思考力UP授業に取り組む。	ベネッセ「ミライシード」との連携で主体的な学びを意識した取組を考えていく。アクティブ・ラーニングを取り入れ、言語活動の充実を図る。	単元を貫く言語活動として、入れ子構造・AB1セット方式の授業を取り入れていく。	説明文や物語文で段落をつける活動や単元の終わりに要点のまとめを書くなどの取組を通して、文中に書かれていることを読み取る力や文章を構成する力の定着を図る。また辞書を引きつけるくせをつけさせ、言語についての知識を高める。自分の考えを書く活動を多く取り入れた授業を展開する。	「知のリソース」活用の観点から、ベネッセ「ミライシード」を活用した話し合いや意見の交流を行い、より多くの考え方に触れられるようにするとともに、ローマ字入力による作文を通して「書く能力」や「言語についての知識・理解・技能」の向上を目指す。

# 平成27年度埼玉県学力・学習状況調査に係る分析報告書 まとめ

## 国語編 視点2 「『新しい学び』として取り組みたい / 取り組む予定の方法」

	1 3 戸田中学校	1 4 戸田東中学校	1 5 美笹中学校	1 6 喜沢中学校	1 7 新曽中学校	1 8 笹目中学校
中1 県70.6	「話すこと」に関して、言語活動を充実させることが重要だと捉える。そのために国語の授業においては、話し合い活動を活発化させるために協調学習を中心としたアクティブ・ラーニング、ジグソー法などを多く取り入れたい。またその際、実態や個に応じ、選択できる課題を設け、個別の力を伸ばす努力を続けていくとともに、年間を通して授業ごとの1分間スピーチにも取り組ませていきたい。	「書く能力」を育成するために、資料の読み取りをしたり、自分の意見を表現する機会を増やしていきたい。話し合いの多様な形態を活用し、「話す・聞く能力」の育成に力を入れたい。特に3年間一貫した指導ができるように、指導内容を検討、統一して取り組みたい。	言語活動の充実を図り、より「話すこと」の観点評価を上げる。書写の授業を活かし、正しく的確に「書くこと」「言語文化」の観点に活かす。	「話すこと」に関して、言語活動を充実させることが重要だと捉える。そのために国語の授業においては、話し合い活動を活発化させるために協調学習を取り入れられる。また、「聞くこと」については、授業を通して聞くこと以外に特別な活動を取り入れ、定期テストとも連動させる。	「話す・聞く能力」に関して、言語活動を充実させることが大切であると考え、協調学習を取り入れた話し合い活動を授業で展開し、充実させていきたい。	協調学習によって話す・聞く活動を充実させる。 漢字テストの回数を多くしていく。 教科書の読みから、発展的な読みへ移行する。
中2 県66.5	協調学習の更なる活用法の研究を行った。 ICTを活用した資料提示を進めた。	「書く能力」のさらなる育成を目指すために、自分の意見を文章にする機会を授業内で多く取り入れていきたい。また、自分と他者の意見を交流させる場を多く持たせることで、「話す・聞く能力」の育成にも取り組んでいく。	言語活動の充実を図り、より「話すこと」の観点評価を上げる。書写の授業を活かし、正しく的確に「書くこと」「言語文化」の観点に活かす。発言する機会を増やし、自分の意見を述べる事が出来る授業展開を図る。	「話すこと」に関して、言語活動を充実させることが重要だと捉える。そのために国語の授業においては、話し合い活動を活発化させるために協調学習を取り入れられる。また、「書くこと」については条件を課したものの、創作など、長ささまざまな書く活動を取り入れ、定期テストとも連動させる。	「書くこと」を生かし、「話すこと」へとつなげる話し合い活動への取り組みを充実させたいと考える。その手段として昨今取り上げられている協調学習を取り入れた授業展開を考えていきたい。	協調学習の更なる活用法を研究する。 ICTを活用した資料提示を研究する。
中3 県63.9	「話すこと」において、言語活動を充実させるために話し合い活動を取り入れ、自分の意見を話すこと、人の意見を聞くこと、それぞれの重要性を理解させたい。	・話し合い活動と、書く活動の両立。 ・問題解決をしながら、既習事項を確認することができるような活動の工夫。	言語活動の充実を図り、より「話すこと」の観点評価を上げる。書写の授業を活かし、正しく的確に「書くこと」「言語文化」の観点に活かす。発言する機会を増やし、自分の意見を述べる事が出来る授業展開を図る。的確に表現できる「語彙力」の定着化。	「話すこと」に関して、言語活動を充実させることが重要だと捉える。そのために国語の授業においては、話し合い活動を活発化させるために協調学習を取り入れられる。「書くこと」については、条件を課しつつも自由な発想で表現できるような課題を与えたい。	「書くこと」を生かし、「話すこと」へとつなげる話し合い活動への取り組みを充実させたいと考える。その手段として協調学習を取り入れた授業展開を考えていきたい。	「話すこと」において、言語活動を充実させるために話し合い活動を取り入れ、自分の意見を話すこと、人の意見を聞くこと、それぞれの重要性を理解させたい。

# 平成27年度埼玉県学力・学習状況調査に係る分析報告書 まとめ

## 国語編 視点3 「『視点2』以外で、授業改善に関する取組」

	1 戸田第一小学校	2 戸田第二小学校	3 新曽小学校	4 美谷本小学校	5 笹目小学校	6 戸田東小学校	7 戸田南小学校	8 喜沢小学校	9 笹目東小学校	10 新曽北小学校	11 美女木小学校	12 芦原小学校
小4 県62.0	校内研修において研究する教科ではなく、学校としての国語科の学習の進め方に関して全体に浸透することが少なくなってきた。機を見て折に触れ、学校として目指すべき授業のあり方を発信していく。	○朝学習の充実 ・各学年の課題や一人一人の児童の課題に応じたプリント学習 ○伝えることへの意欲の向上 ・今年度より朝学習で取り組んでいるフリートークの継続及び深化	「書く能力」を高めていくために、朝自習の時間を使って変身日記などに取り組みさせる。	授業の中で、ノートに書かせる時間の確保する。	言語事項に関する正答率が高かった中で、このレベルを維持・向上させるために、業前に行っている「ことばタイム」の改善と国語学習における「授業のスタンダード基本構成」の再確認と徹底を図り、児童の内容理解の順序性を基にした授業を行う。	言語についての知識・理解する力をより育成するために、新聞等を活用し、漢字を読んだり書いたりする機会を意図的・計画的に設定する。また、国語辞典や漢字辞典の使用を習慣づける。	ローマ字に関しての正答率が県平均を上回っているものの、5割程度であるので、日常的に情報教育と関連を図りながらローマ字学習に取り組ませ、確実な定着を図っていく。	数量や図形についての技能を定着させるために、継続的な取組を続ける。 文章問題の取組を充実させる。また、学習協力者による放課後の補習を行う。 とだっ子学習クラブとの連携をし、未定着な内容を補充する。 eライブラリを授業等で活用し家庭での活用率を高める。	「書くこと」の基本として、学年で教材研究を行い、みエルモンを活用したノート指導の充実（例段落の指導）を図る。また、自分で読み深める活動を多く取り入れ、「読むこと」の力を付けさせる。その上で自分の考えを話し合い「話すこと」「聞くこと」の力を高めていく。	辞書の活用、書きのタネ（ワークシート）の活用を推進する。	書く能力が低かったことから、書く活動に多く取り組ませるため、行事ごとに日記を書く習慣を付けさせる。原稿用紙の使い方も含めて指導する。 自分の考えを書く活動を多く取り入れた授業を展開する。	「読む能力」については図書館の利用と本好きサポーターとの連携を行う。「言語についての知識・理解・技能」については、国語辞典の活用を日常的に行い、自ら調べる能力も高めるようにする。
小5 県72.8	校内研修において研究する教科ではなく、学校としての国語科の学習の進め方に関して全体に浸透することが少なくなってきた。機を見て折に触れ、学校として目指すべき授業のあり方を発信していく。	○朝学習の充実 ・各学年の課題や一人一人の児童の課題に応じたプリント学習 ○伝えることへの意欲の向上 ・今年度より朝学習で取り組んでいるフリートークの継続及び深化	「書く能力」を高めていくために、朝自習の時間を使って変身日記などに取り組みさせる。	「読むこと」においては、説明文の問題の正答率が低くなっている。国語の授業で説明文の構成や段落相互の関係についての知識を定着させるとともに、他教科でも本時の課題についての要点を自分の言葉でまとめるようにして、要点についての考え方の定着を図る。	児童質問紙等から、「学習のきまりを守る」項目に課題が見られることから、学習規律の徹底を図るため、本校の取組の再確認と徹底を図り、態度の面からも理解が深まりやすい環境づくりに努める。	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」をより高めるために、年間を通して計画的に短歌や俳句、詩、古文等の暗唱を取り入れていく。また、その成果を披露することができる暗唱発表会を学年で計画し、実践する。	相手を意識して話す、分かりやすく伝える力を育成するために、発声・発音を意識した音読指導に取り組む。その際、立腰の姿勢の定着を図るようにする。	※授業の始めに必ずミニプリント学習や朗読等のアクティビティを行う。【スイッチタイム（仮称）（3分以内）】 ・ミニプリント学習についてはやる気を持てる量や内容で準備し、意欲を高めるように工夫する。プリント学習以外にも文作り、班での伝え合い、詩の朗読等のアクティビティを行っている。	単元を貫く言語活動を生かして、学習のゴールを明確に表した学習を行い、児童に意欲をもたせる取組を行い、言語活動の充実を図る。	理解を深めるためのさらなる教材・教具の工夫を進める。	主語・述語、修飾語、接続詞等のプリントを国語の時間のはじめに行い、基礎の定着を図る。 授業の終わりに学習したことを振り返る活動を必ず行う。	国語辞典や漢字辞典の活用を積極的に行う。 新出漢字や熟語をつかった短文づくりを行う。
小6 県69.0	校内研修において研究する教科ではなく、学校としての国語科の学習の進め方に関して全体に浸透することが少なくなってきた。機を見て折に触れ、学校として目指すべき授業のあり方を発信していく。	○朝学習の充実 ・各学年の課題や一人一人の児童の課題に応じたプリント学習 ○伝えることへの意欲の向上 ・今年度より朝学習で取り組んでいるフリートークの継続及び深化	「書く能力」を高めていくために、朝自習の時間を使って変身日記などに取り組みさせる。	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関して、以前学習してきた内容について繰り返し学習していくことが重要だと考える。そのため、朝自習の時間に、短作文や漢字だけでなく、各学年における言葉の特徴やきまりに関する事項に関して学習してきた内容を繰り返し学習するプリント等を用意し取り組みさせる。 漢字の定着に関しては、授業中のミニテスト、各学期末に行われている校内での検定を活用し、知識の確実な定着を図る。	「規律ある態度」の結果から、本校の取組と関連付けながら、学習態度の面での向上も図っている。また、スモールステップを積み重ねて自信をもたせる、段階的な指導ができるような授業改善に取り組む。	物語文の「読む能力」をより育成するために、登場人物の相互関係をしっかりと捉えさせる。人物を表す絵、吹き出し、人物を行動や会話に即しながら性格を押しさえ、物語の中でどのような役割を担っているのかを考えさせていく。	書く活動を取り入れる際に時間と文字数を意識させて取り組ませる。 漢字の再テストを繰り返し、合格するまで徹底的に実施させている。	数量や図形についての技能を定着させるために、継続的な取組を続ける。 文章問題の取組を充実させる。また、学習協力者による放課後の補習を行う。 とだっ子学習クラブとの連携をし、未定着な内容を補充する。 eライブラリを授業等で活用し家庭での活用率を高める。	学習感想や学習のまとめを毎回考えさせることを徹底する。その際、いくつかの条件（段落やキーワード等）を与えることで書く能力の向上を目指す。	児童が主体的に取り組めるような取組を開発する。 めあての提示・学習の流れを提示する。	文殊の知恵タイムを活用するなど、話し合い活動に力を入れることで、話す・聞く能力や書く能力をより高めていく。	「言語事項」に関して、ドリル学習を行うとともに、日常生活の中で用いて活用しながら身に付けさせたい。

# 平成27年度埼玉県学力・学習状況調査に係る分析報告書 まとめ

## 国語編 視点3 「『視点2』以外で、授業改善に関する取組」

	13 戸田中学校	14 戸田東中学校	15 美笹中学校	16 喜沢中学校	17 新曽中学校	18 笹目中学校
中1 県70.6	「書くこと」については、単元ごとに選択制の課題を設け、個に応じた指導ができるようにする。また、個別の課題についてのアドバイスも、よりきめ細かく伝えていきたい。	積極的にグループ活動を取り入れ意見交換する場を設けたい。また、漢字の書き取りの取組は継続し、言語についての知識の定着を図る。	レポートや感想や、メモを取らせるなど、書きをさらに重視した指導展開に努める。	「言語についての知識・理解・技能」については、毎授業5分間の「漢字練習・テスト」を実施し、知識の確実な定着を図る。また、文法・慣用句・四字熟語などの定期的な復習も計画したい。	漢字の読み書きの定着について、身につけていないことも多い状況を考えると、小テストや漢字コンテストの実施など定着に向けた取組を計画していきたい。	自己評価を設定する。 ICTを活用する。
中2 県66.5	「書くこと」については、単元ごとに選択制の課題を設け、個に応じた指導ができるようにする。また、個別の課題についてのアドバイスも、よりきめ細かく伝えていきたい。	漢字テストで解けなかった箇所をノートに書き直しさせ、さらなる言語についての知識の定着を図る。	レポートや感想や、メモを取らせるなど、書きをさらに重視した指導展開に努める。	「言語についての知識・理解・技能」について、授業の最初に文法・四字熟語・慣用句などをフラッシュカードを使用し、少しずつ定着させていく。	課題となっている「読むこと」については、文章を読む教材の時は教師が全て通して読んで終わるのではなく、どうしてこうなったのか、など発問を織り交ぜながら行い、「読むこと」の力を錬成していきたい。	発達の段階に応じた課題を提示する。 1時間あたりの授業構成を工夫する。
中3 県63.9	「話す・聞く」能力の向上を目指して、年間を通して意見文を書く機会を増やすとともにクラス内弁論大会を実施したい。また、身近な題材でのディベートにも取り組みたい。	話し合いマニュアル（話し合いに関する資料）の作成と活用を図る。 メモを取ることを指導する。	レポートや感想や、メモを取らせるなど、書きをさらに重視した指導展開に努める。 考えたものを書かせて、自分の意見が発言できる授業を展開する。	「言語についての知識・理解・技能」については、毎授業5分間の「漢字練習・テスト」を実施し、知識の確実な定着を図る。また、慣用句・四字熟語などの定期的な復習も計画したい。	課題となる漢字の読み書きの定着について、書くことは一生懸命にやるが、身につけていない状況を改善するために引き続き、小テストの実施や漢字コンテストなど定着に向けた取組を計画する。	言語についての知識・理解・技能において、文法や漢字などそれぞれ小テストを行うようにする。

# 平成27年度埼玉県学力・学習状況調査に係る分析報告書 まとめ

## 国語編 視点4 「補充的指導として取り組みたい / 取り組む予定 / 強化したい事柄」

	1 戸田第一小学校	2 戸田第二小学校	3 新曽小学校	4 美谷本小学校	5 笹目小学校	6 戸田東小学校	7 戸田南小学校	8 喜沢小学校	9 笹目東小学校	10 新曽北小学校	11 美女木小学校	12 芦原小学校
小4 県62.0	毎週金曜日の朝行っている「ことばのわ」の中で文法にかかわるもの(主に主語述語)を取り入れている。	○「書くこと」の指導 ・朝学習の時間を活用して「書くこと」に関するプリント教材や視写の時間の設定 ・「書くこと」に関する家庭学習の取組(簡易的な評価で済むもの)	学校公開日に今年の漢字一字を考えさせる授業を行うことで、家庭の意識も高める。	新出漢字の指導を早目に行い、習熟に力を入れる。 朝学習の時間を使い、視写や短作文に取り組む。	家庭学習の質の向上を図るために、従来行ってきた「家庭学習パワーアップ大作戦」の改善策を学力向上プロジェクト内で検討し、家庭への啓発と協力を図る。また、図書委員会による読書を勧める取組みを図書部で検討する。	「読む能力」を高めるために、教科書作品以外の多くの作品に触れる(多読する)機会を増やす。「書く能力」については、授業内で定期的に、教科書を視写する活動を実施し、文章等を書く機会を意図的に設けている。	継続的に朝自習で短作文等を行ったり宿題で日記に取り組みせたりと、書くことに慣れさせる。また、どの教科領域でも自分の考えを書かせる習慣づけを行っていく。	引き続き朝読書に取り組む。また、11月の「読書月間」には親子読書を奨励し、家庭での不読率0%を目指す。本に触れる機会を増やすことで、読むことへの抵抗を減らし語彙を増やしていく。	朝の学習の「視写」への取組で「書くこと」への苦手意識をなくし、書くことになれさせる。日記や作文を家庭学習で取り組ませる。学校教育全体で「書く」活動を増やす。(例 校長講話の内容を書く・担任の言葉をメモし、文を完成させるゲームなど)「聞くこと」の向上にもつながる。	おはよう言葉遊びタイムで、言語についての基礎的な内容をくり返し取り組み習得できるようにする。 視写(正確に書き写す力)を推進する。	家庭学習の課題の与え方について教職員で共通理解を図る。課題で上げた分野に係る単元について意識して力がつくよう指導に取り組む。 とだっ子学習クラブを活用し、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。	自主学習での取組は、漢字学習に力を入れる。読書タイムなど、読書の活動では、自分で読む時間を確保する。連絡帳での一行日記で書くことへの抵抗感をやわらげる。家庭学習の手引きをもとに、家庭学習の定着を図る。とだっ子学習教室への参加やeライブラリーの活用を学校だより・懇談会などを通して啓発する。
小5 県72.8	毎週金曜日の朝行っている「ことばのわ」の中で文法にかかわるもの(主に修飾語・被修飾語)、ことわざを取り入れている。	○「書くこと」の指導 ・朝学習の時間を活用して「書くこと」に関するプリント教材や視写の時間の設定 ・「書くこと」に関する家庭学習の取組(簡易的な評価で済むもの)	学校公開日に今年の漢字一字を考えさせる授業を行うことで、家庭の意識も高める。	「書くこと」においては、書くことに慣れるため、業前の学習時間にミニ作文に取り組ませる。	今まで行ってきた「家庭学習パワーアップ大作戦」を改善し、家庭教育の質の向上と、「よりよい放課後の過ごし方のススメ」を作成し、学習時間の提示を行い、家庭も巻き込んだ学力向上に努めていく。	「読む能力」を高めるために、教科書作品以外の多くの作品に触れる(多読する)機会を増やす。「書く能力」については、授業内で定期的に「ミニ作文」を実施し、文章等を書く機会を意図的に設けていく。	作文のきまりが正しく習得できていない児童が多いので、作文のきまりについても丁寧に継続して指導する必要がある。(段落、1ますあけ、「」の使い方)の指導。)段落を意識して書くことで、文章全体の構成を整える力にも結び付くと考えます。	担任や学年教員による放課後の補習により、全ての児童の学びを保障する手だてを講じる。	全校での朝学習の「視写」を行い、「書くこと」への自信につなげる。授業の進度に遅れが見られる児童に対して、放課後の補習により、すべての児童に支援する手立てを講じる。	おはよう言葉遊びタイムの有効的な活用を図る。	国語のパワーアップタイムで「書く力」を養うプリント学習に取り組む。	家庭学習の手引きをもとに、家庭学習の定着を図る。とだっ子学習教室への参加やeライブラリーの活用を、学校だより・懇談会などを通して啓発する。
小6 県69.0	毎週金曜日の朝行っている「ことばのわ」の中で文法にかかわるもの(主に修飾語・被修飾語)、慣用句を取り入れている。	○「書くこと」の指導 ・朝学習の時間を活用して「書くこと」に関するプリント教材や視写の時間の設定 ・「書くこと」に関する家庭学習の取組(簡易的な評価で済むもの)	学校公開日に今年の漢字一字を考えさせる授業を行うことで、家庭の意識も高める。	家庭学習の習慣を身につけさせるために、学校全体で取り組んでいるパワーアップカードの指導を徹底するとともに、家庭学習で取り組めるようなプリント学習をさせるための系統性を意識したプリントを用意、自ら選択させ実施させる。	家庭学習において、「一言日記」や「作文」等の課題をだし、文章表現能力の底上げや、読書習慣が身に付くような取組を検討し、随時行っていく。また、表彰なども行い、意欲を高めていく取組みも並行して行う。	「読む能力」を高めるために、教科書作品以外の多くの作品に触れる(多読する)機会を増やす。「書く能力」については、授業内で定期的に「ミニ作文」や「詩や川柳」を実施し、文章等を書く機会を意図的に設けていく。新聞を活用した授業を実践する。	eライブラリを活用した反復学習をする。 基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る。 読書指導を充実させる。	引き続き朝読書に取り組む。また、11月の「読書月間」には親子読書を奨励し、家庭での不読率0%を目指す。本に触れる機会を増やすことで、読むことへの抵抗を減らし語彙を増やしていく。	全校での朝学習の「視写」を行い、書くことに慣れさせる。学校生活の中で書く活動を積極的に取り入れる。(例 校長講話の要点を100～200字程度に書く等)聞く能力の向上にもつなげていく。	音読、読書カード、家庭学習用プリント・ドリルを活用する。 理解が不十分な児童への効果的な個別指導を行う。	主語・述語、修飾語などの文法について、小単元の指導の工夫を行い、定着を図るとともにパワーアップタイムで重点的に取り組む。	家庭学習の手引きをもとに、家庭学習の定着を図る。とだっ子学習教室への参加やeライブラリーの活用を学校だより・懇談会などを通して啓発する。また、金曜日のスキルタイムで、対話を中心とした詩の感想交流を行い、言語についての技能を高める。

# 平成27年度埼玉県学力・学習状況調査に係る分析報告書 まとめ

## 国語編 視点4 「補充的指導として取り組みたい / 取り組む予定 / 強化したい事柄」

	13 戸田中学校	14 戸田東中学校	15 美笹中学校	16 喜沢中学校	17 新曽中学校	18 笹目中学校
中1 県70.6	『百人一首を覚えよう』ということで、「伝統的な言語文化と国語の特質に・・・」への学習に力を入れていく予定である。古典を扱う時期に、ゲームや小テストを繰り返しながら、古典や伝統的な文化への関心を深めさせ、学力を向上させていきたい。	日頃から「書くこと」に関わる取り組みをすることで「書く能力」を身に付けるだけでなく、苦手意識を払拭できたらと考えている。	漢字学習を強化する。(家庭学習による予習復習の習慣をつけさせる) ものの見方や考え方を客観的に捉える理解・技能を強化する。 発言授業を展開する。	毎朝行っている読書タイムを継続する。折にふれ、読書紹介を行う。また、古文の暗唱など進んで取り組める課題設定をする。	さまざまなジャンルの文章を読み、文章スタイルに応じた読み方を練習していきたい。	話すこと・聞くことに関しては、まだまだ伸ばしていける。 読むことについてもポイントを絞って読む。
中2 県66.5	「百人一首を覚えよう」ということで授業でも力を入れている。古典を扱う時期に、ゲームや小テストを繰り返しながら、さらに古典や伝統的な文化への関心を深めさせ、上級学校で必要とされる力を身につけさせたい。	学年の共通理解として、日常の学校生活の中で、人の話を最後まで聞くという習慣を身につけられるよう指導していく。 また「アイノート」を毎日3行以上書くように指導し、国語の授業以外でも書く能力の育成を図っていく。	漢字学習を強化する。(家庭学習による予習復習の習慣をつけさせる) ものの見方や考え方を客観的に捉える理解・技能を強化する。 発言授業を展開する。	古文の暗唱だけでなく、名文の暗唱も積極的にやりたい。折に触れて読書紹介を行う。	小説・随筆・漢文・古文など様々なジャンルの文章を読み、どの文章スタイルにも応じられる様に取り組んでいきたい。	定期的な補習を企画する。 生徒が自己評価を定期的に行う。 スピーチ活動を充実させる。
中3 県63.9	新聞を活用し社説、コラム、投書欄、人物欄などを読み、要旨をとらえ簡潔に要約したり、意見・感想を発表し合ったりすることによって、情報発信を体験し、情報を見極める力を養いたい。	戸田っ子学習クラブとの連携。(特に昼休みの活用) テスト前勉強会に積極的に参加させる。	漢字学習を強化する。(家庭学習による予習復習の習慣をつけさせる) ものの見方や考え方を客観的に捉える理解・技能を強化する。 発言授業を展開する。	毎朝行っている読書タイムを継続する。読書紹介や学年漢字コンテストなどの計画も考える。	さまざまなジャンルの文章を読み、文章スタイルに応じた読み方を練習していきたい。	文章を読むことに慣れるよう、読書活動の声かけをしていきたい。